

6 御蔵島基本計画

10年後の目標

積極的な定住促進により、みどり豊かな自然に恵まれた、ゆとりある暮らしと、全ての人々に親しまれる御蔵島「グリーン愛ランド・御蔵島」が実現している。

- 基幹施設である港湾について施設整備が進み、定期貨客船・貨物船の就航率向上が図られている。その結果、人・物の交流が促進され、生き生きとした村づくりに大きく寄与している。
- 夏期に集中していた観光客が年間を通じて来島可能となっている。
- 地域外に居住しながら地域や地域の人々と多様に関わる関係人口が1,000人に達している。
- 資源豊かな御蔵島の特性を十分に活用した農・林・水産業及び観光業の連携が図られることにより、雇用の創出及び経済活性化に繋がっている。
- 防災面も含め住民相互間の共助によって、乳幼児から高齢者まで安心した生活を送ることができる地域社会となっている。
- 「保護」と「開発」との調和が図られ、巨樹の森をはじめとする固有の貴重な動植物、生態系等、先人から引き継いだ太古からの自然環境が残されている。
- 無電柱化により防災面が強化されている。

島の現況・特色

【現況】

- 御蔵島は、北緯33度53分、東経139度35分、東京から南南西約200kmの太平洋上に位置しており、面積20.55km²、周囲16.4kmのほぼ円形をした島である。
- 中央にある標高850mの御山を中心に、山頂の東側と南側に爆発火口により形成されたと思われる山峡があり、いずれも馬蹄形に山頂から海岸に大きく開き、島を四分している。有史以来の噴火の記録は残されていないが、島の随所に大小の噴火を繰り返してきた火山島であることを裏付けるものが多く残っている。

- 地形は起伏が激しく、平坦地は島内にほとんどないが、温暖多雨な海洋性気候は多くの恵みをもたらしている。その代表的なものが豊かな水資源であり、それらを涵養する常緑照葉樹は、肥沃な土壌を形成する上で大きな役割を果たしている。島全体を常緑照葉樹が覆いつくしている御蔵島は、島そのものが洋上に浮かぶ巨大な森を想像させる。
- 一島一村一集落であり、令和4（2022）年1月現在、人口299名、世帯数163世帯で、高齢化率は16.3%となっている。

【特色】

- 周囲を切り立った最高480mの日本一を誇る海食崖が取り囲み、特異な景観を有している。国際保護島であるオオミズナギドリの我が国最大の繁殖地であるほか、世界に比類のない根付きイルカの生息地でもある。島を覆う植物群は、スダジイ、クワ、ツゲ等であり、数多くの巨樹が確認されている。さらに、エビネ（注1）の女王ともいわれるニオイエビネランの原産地でもあるなど、全国の離島でも屈指の豊かな自然に恵まれた島である。

（注1）エビネ：ラン科エビネ属の多年草

- 近年は、イルカウォッチングを始め、この自然を体験しようとする来島者が増加し、観光客はリピーターを含め年ごとに増加傾向にある。また、村独自に自然保護条例を制定するなど、自然と人間との共生を目指した島づくりを推進している。

島の課題

- 湾入部を有しない地形のため、定期貨客船の安定的な就航を確保するための港湾整備が最大の課題となっている。これまでも整備が進められてきたが、外海に突き出す形態の岸壁であることから、天候や潮流等の影響を受けやすく、特に、晩秋から春にかけては強い偏西風の影響で定期貨客船の接岸率が低下し、住民生活、更には地域の活性化に大きな影響を及ぼしている。
- 日本でも屈指の好漁場を目前としながらも、小型船施設（漁船舶地）が十分でないことから漁船の大型化による漁業振興を行うことが難しい。また、平坦地が少ないため、大規模な農業経営も困難である。
- 各産業間において連携が十分図られておらず、基幹産業の振興及び他の産業との連携を促進させる「仕組みづくり」が不十分である。また、リーダーシップのある人材の育成が求められている。

- 近年増加している若年人口の受け皿として、地域の特性を生かした産業の振興を図り、雇用の場を確保することが求められている。
- 道路等の基盤整備の困難性などにより、土地の有効活用が図られておらず、住宅が不足しているため、UJターンによる受入体制に制約があり、地域の活性化に支障を来している。村営住宅については、老朽化による改修及び建替えが課題となっている。
- 電力について、基本的には安定供給が図られているが、災害等の影響により円滑な燃料の輸送がなされなければ、供給停止に陥ることが懸念されている。
- 防災力を更に向上させるため、無電柱化や防災意識を高め、行政・消防団・地域防災組織で連携し、災害時のルールや情報伝達手段を整理することが不可欠である。
- 高齢化率は低下しているものの、「予防」の観点から保健指導を行うなど、高齢者を支えていく体制づくりが不十分である。

目標達成への道筋

- 航路及び港湾については、就航率の向上を目指し、海況に左右されにくい港湾整備を行っていく。
- 都道及び村道に設置されている電線類について地中化を実施し、御蔵島における防災性の向上や良好な景観を創出する。
- 他に見ることのできない恵まれた自然環境を生かした観光は、今後も発展が望めることから、観光振興を基軸に地域の活性化を図っていく。そのため、新たな観光メニューの展開や、天候にかかわらず楽しめるような全天候対応型施設の整備を進めていく。
- 農地の有効活用を進め、特産品量産のための農業体制を確立するとともに、観光との連携を図り、地産地消を定着させ1次産業の振興を図っていく。また、未活用の産物も商品として生産できるよう積極的に「ものづくり」に取り組んでいく。
- 定住化の視点を踏まえた村営住宅、道路等のインフラ整備を進め、地域の活性化を図るとともに、離島の孤立防止、減災対策に資する島づくりに取り組んでいく。
- 高齢者、障害者の目線に立ったインフラ整備を促進するとともに、生き生きと暮らせるよう働ける場、集まれる場を創出していく。

- 多世代にわたる交流の場を広げ、自然環境や歴史に触れる機会をつくり、次世代を担う子供たちの成長を島全体で支援していく。
- 先人から受け継いだ自然環境を次世代以降に引き継ぎ、人と自然との共生が図られた島づくりを推進していく。

【東京都版エコツーリズムの取組】

- 御蔵島の貴重な自然環境を適正に利用しながら保護することを目的に平成 16（2004）年4月から実施している。

（1） 三つの区域の設定

- ①東京都自然（御蔵島）ガイドなしで立ち入れる地域
（自然環境保全促進区域除外区域）
- ②東京都自然（御蔵島）ガイドがいれば立ち入れる地域
（自然環境保全促進区域陸域・海域利用区域）
- ③立ち入り禁止区域
（自然環境保全促進区域）

（2） （1）②の区域における適正なルールづくり

<一般ルール>

- ・ 東京都自然（御蔵島）ガイドの指示に従う。
- ・ 定められた経路以外を使用しない。
- ・ 自然に存在するものはそのままの状態にする。
- ・ 移入種を持ち込まない。
- ・ 動物にエサを与えない。
- ・ 動物を驚かしたり、追い立てたりしない。
- ・ 岩石などに落書きをしない。
- ・ ごみは捨てず、全て持ち帰る。また、海へ投棄しない。

<陸域のルール>

- ・ 1日当たりの最大利用者数：50人（1回当たり7人）
- ・ ガイド1人が担当する利用者数の人数の上限：7人
- ・ 利用時間：日の出から日没まで
- ・ 路面がぬかるんでいる場合は利用しない。

<海域のルール>

- ・ ガイド1人が担当する利用者の人数の上限
遊泳による観察を伴う場合：13人
船上ウォッチングのみの場合：法定乗船定員
- ・ 利用時間：5時30分から17時30分まで ※1回当たり3時間以内